

事例10 敷居につまずき、鉄製扉の開閉部に手を入れ挟まれる

1 災害の概要

項目	内容
介護労働者（事務員）	経験1年、40歳代の女性
作業	清掃作業（ゴミ出し作業）
災害の型	挟まれ、巻き込まれ
起因物	鉄製の扉
傷病	小指の骨折
災害の程度	6週間の休業災害



2 発生状況

事務所の清掃及びゴミ出しを終え、事務所入り口の土間にて靴を脱ぎ鉄製の扉を閉めようとしたときに、敷居につまずき転倒した。とっさに、柱につかまろうと手を出したところ、柱と鉄製扉の開閉部に手を入れて挟んでしまった。局部が見る間に腫れてきたので、病院で受診した。

3 原因

- (1) 靴を脱いだばかりの不安定な状態のため、土間と敷居の段差につまずいた。
- (2) 玄関が狭く、扉を開けた状態で靴を脱いでいた。

4 対策

(1) 事業者

- ① 玄関を整理し、扉を閉めた状態で靴を脱げるようにする。
- ② 土間と敷居との間の段差を無くす。
- ③ 土間の壁に靴の着脱用の手すりを付ける。

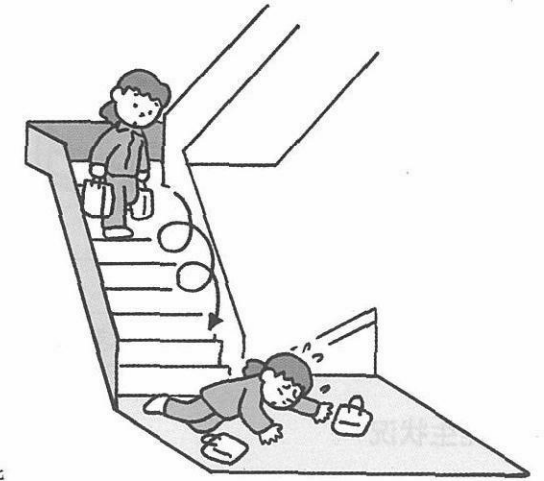
(2) 介護労働者

- ① 日頃から玄関のスペースを確保しておく。
- ② 扉を閉めてから、靴を脱ぐようにする。
- ③ 下駄箱等で身体を支えるようにする。

事例11 階段を下りる際、バランスを崩し転落する

1 災害の概要

項目	内容
介護労働者	経験3年、40歳代の女性
作業	その他
災害の型	墜落、転落
起因物	階段
傷病	左足関節複雑骨折、右足関節捻挫
災害の程度	4ヶ月の休業災害



2 発生状況

仕事終了し、帰途につくため団地の3階の階段を下りようとした際に、足を滑らせバランスを崩したまま、途中の踊り場まで転落した。歩くことが出来なかったが、幸い通りがかりの団地の住人が救急車を手配してくれ病院へ直行した。

3 原因

- (1) 両手に荷物を持っており、足下の確認をせず階段を下りようとした。
- (2) 時間がなく、急いで階段を下りようとした。
- (3) 手すりを掴まずに階段を下りた。
- (4) 階段の段差が普通より高く、バランスを崩した。

4 対策

(1) 事業者

- ① 時間に余裕を持ったスケジュールを組むようにする。
- ② 手荷物を片手で持てるように資料やバッグの工夫をする。
- ③ 安全意識高揚の教育（KYT—危険予知訓練の導入等）を行う。

(2) 介護労働者

- ① 荷物を片手に持てるよう取りまとめてから、階段を下りる。
- ② 普段から手すりを掴んで下りる習慣をつける。
- ③ 利用者宅の生活環境を理解・確認し行動する。